

実施日：6月9日（5校時）※本小単元の学習時期は、1学期間（4～7月）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：大観の未来つなぎ隊！ ～防災減災について考え伝えよう～	
対 象：6年生	実施場所：教室など
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に大観のまちの高齢者との防災減災における関わりを通して、安心安全な生活には、人と人とのつながりが大切であることに気付き、自分ができることや命を大切に生き方を考え問い続けていくことができる。 ・ 大観のまちの一員として防災減災のためにできることを考え伝えあうことを通して、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育む。（価値的・態度的側面） ・ 命や人とのつながりを大切に生き方について考え問い続けようとするを通して、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を育む。（技能的側面） 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題設定と防災減災についての情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの総合的な学習を想起し、今年の課題を決める。 ・ 課題解決に向けて、見通しやめあてをもつ。 ・ 図書資料、新聞、インターネット、明石市安全対策室の講話、県立舞子高校環境防災科生徒との交流を行う。 ○ 防災減災の啓発のための活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことなどから、今後の課題について意見交流し、提案をもとに課題解決に向けた成果物（防災新聞）を作成する。 ・ 防災新聞を、地域の方やこれまでに教えて頂いた方、学校内の児童（5年生）に伝え、防災減災の意識を高め自分や周りの命を守るための活動をする。 	
ウ 連携先：学校、家庭、地域（明石市安全対策室、県立舞子高校環境防災科、地域住民）	
エ 連携に向けての取組 <p>学んだことを整理し、今後の課題と照らし合わせた上で新聞を作成し、内容をこれまで関わって頂いた地域の方や後輩に伝えて命を守る意識と行動を促す。また、課題を解決するために県立舞子高校の生徒と出会うことで情報を共通理解した。児童の学習の成果物を県立舞子高校生に送り、内容を見てもらう予定である。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災や減災というカテゴリーは学校内だけでは学ぶ機会が少なく情報も足りないため、専門機関や専門的な学びを修める学校との情報交換の場を設けた。児童が学んだことを還元した新聞を読んで頂くことで、子どもの学びに対する成長を見守ると同時に、命を守り続ける意識の向上を育んだ。その際に、自己評価だけでなく他者評価を取り入れたことで考えや行動について様々な視点で助言を頂くことができた。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災新聞【別紙⑦】 感想【別紙⑦】 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害から命を守るためには、備えが必要不可欠であることを理解できた。備えとは単に道具だけでなく、災害の基礎知識と命の守り方（いつ、どこへ、どのように避難するのかなど）を身につけておくことを理解できた。 ・ 「自分は大丈夫だ」という判断は自分の命を大切にしていない考えであることに気付き、災害時は非常事態であることを念頭に置き、まずは自分の身を守るための行動をとることが大切であると理解できた。 ・ 自分の命を守ることが、他者の命を守る原点になることを知り、様々な人々関わることにより自らの有用感や自己肯定感へとつながった。 	
ク 課題 <p>児童は地域の方から守られていることを知る中で自分は大切にされていることに気付き、児童が自ら地域貢献しようとする中でうまく行動に移せない児童もいる。そうした個人差については、人権に関する知識理解の促進や人権感覚の向上に加えて適切な自己表現につながるための支援を人権加配や担任教諭の指導を通じて社会貢献できる子へと育てたい。</p>	